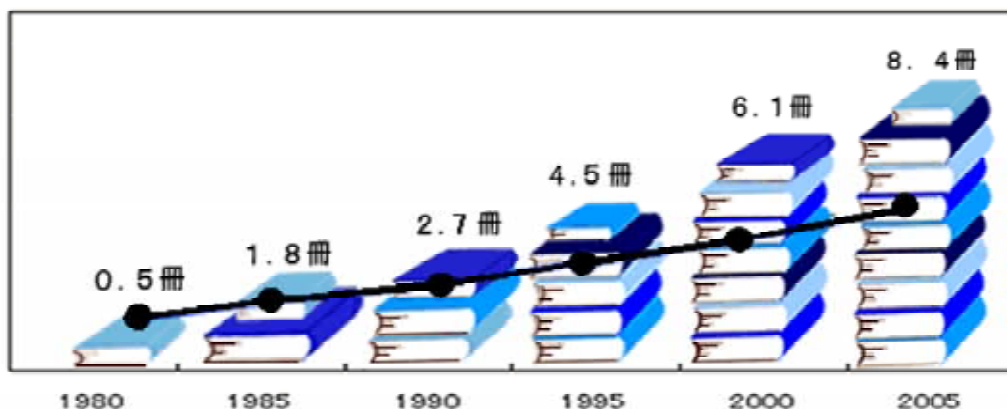


**県民1人あたり貸出冊数全国1位！**

滋賀県 人口1人あたり貸出冊数

全国平均



平成16年度の滋賀県の県民一人あたりの貸出冊数は8.4冊と3年連続全国1位となりました。全国平均が4.7冊ですので非常に高い数字となっています。

(日本図書館協会『日本の図書館2005』より)

## INDEX

- ・(特集)平成17年度(2005年度)統計&来館者アンケート・・・2・3面
- ・湖国の本棚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3面
- ・郷土資料紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4面

### 図書館催し

おはなし会

6月21日(水)・7月19日(水)

午前11時と午後3時の2回

1階 談話室にて

**今年もやります**

**夏休み文化ゾーン子ども探検隊**

昨年大好評だった“夏休み文化ゾーン子ども探検隊”を今年も実施します。

詳細は県立図書館までお問い合わせ下さい。

## 平成 17 ( 2005 ) 年度 統計 & 来館者アンケート

昭和55年に県立図書館が文化ゾーンに移転してから、昨年で25周年を迎えました。この四半世紀で図書館のサービスは大きく発展し、貸出冊数・蔵書冊数ともに大きく増加しました。今年 1 月からインターネットを利用した新サービスも始まった県立図書館の「いま」を、昨年の統計をもとにご紹介します。

### ようこそ図書館へ

平成17年度の延べ利用者数は24万2,453人で、草津市の人口の約 2 倍の方が来館された計算になります。貸出冊数は97万9,236冊で、25年前の貸出冊数が5万3,687冊でしたのでおよそ18倍にもなりました。この個人への貸出冊数は都道府県立図書館の中でもトップクラスです。

また県立図書館の大切な仕事として、市町立図書館に対する支援がありますが、昨年度の市町立図書館への貸出冊数は4万8,183冊となり、25年前の37冊とは比較にならないほど増加しました。市町立図書館の数も5館から44館と増え、市町立図書館全体での貸出冊数は1,126万冊となりました。図書館が身近になったことで、県民1人あたりの貸出冊数はこの25年で0.5冊から8.4冊と大きく飛躍しました。

### 見つけましたか？あなたの1冊

平成17年度に県立図書館で最も利用された本は、『少ないモノでゆたかに暮らす』の55回でした。1999年の出版ですが、今話題の「Iohas (ロハス)」にもつながる作者の暮らし方が共感呼んでいるのかもしれませんが。またベスト10には宮部みゆきの作品が複数あり、その人気うかがえます。番外ですが、『12歳から学ぶ滋賀県の歴史』は41回の貸出で、読みやすさから多くの方が手にとられているようです。児童書については、定番の3冊が不動の地位を築いています。

当館の蔵書は、昨年度 4 万 6,604 冊の資料が新たに加わり 112 万冊を超えました。今後もみなさんの豊かな暮らしを支える蔵書づくりによりいっそう努めていきたいと思えます。

### 平成17年度ベストリーダー

#### (一般書編)

- 『少ないモノでゆたかに暮らす』 55 回  
大原照子 大和書房 1999 年
- 『クロスファイア』(上・下) 54 回  
宮部みゆき 光文社 1998 年
- 『あやし』 50 回  
宮部みゆき 角川書店 2000 年
- 『ドリームバスター』 50 回  
宮部みゆき 徳間書店 2001 年
- 『白夜行』 48 回  
東野圭吾 集英社 1999 年
- 『模倣犯』(上・下) 48 回  
宮部みゆき 小学館 2001 年
- 『理由』 46 回  
宮部みゆき 朝日新聞社 1998 年
- 『お金とモノから解放される  
イギリスの知恵』 46 回  
井形慶子 大和書房 2001 年
- 『スプートニクの恋人』 45 回  
村上春樹 講談社 1999 年
- 『柔らかな頬』 45 回  
桐野夏生 講談社 1999 年
- 『ぼんくら』 45 回  
宮部みゆき 講談社 2000 年

#### (児童書編)

- 『ノンタンおよぐのだいすき』 157 回  
キヨノサチコ 偕成社 1977 年
- 『ぐりとぐら』 153 回  
なかがわりえこ 福音館書店 1967 年
- 『ぐりとぐらのかいすいよく』 127 回  
なかがわりえこ 福音館書店 1977 年

## お聞きしました

県立図書館では2月25日(土)、26日(日)に利用者アンケートを行い、1,589人の方々にご回答いただきました。その中から、1月に開始した新サービスについてのアンケート結果をご紹介します。

## 新しいサービスについて

当館では、1月からインターネットや利用者用検索端末を利用した予約受付サービスと、ホームページ上で古文書など貴重な資料を電子化したデジタルアーカイブの公開を始めました。アンケートの結果、これらサービスについては42%の方がすでにご存知でした。また今後利用されるかを伺ったところ、半数以上の方が利用してみたいとのことでした。みなさまの新しいサービスへの期待が感じられます。

## 借りている本の確認に利用

次に新しいサービスを使ったことがあると答えた方に、どのサービスを利用したことがあるかを伺いました。図書館としては1月以降リクエスト件数が急増しましたので、予約サービスとの回答が最も多いと予想したのですが、結果は貸出状況の確認でした。みなさまが返却前などに借りられている本の冊数や題名の確認をされていることがうかがわれます。

一方、予約サービスは第2位でした。調べたところ予約サービスの利用時間帯の約6割が夜間で、好きな時間に予約できる便利さを実感されているのではないかと思います。また県内図書館の蔵書を一度に検索できる横断検索も利用が高く、読みたい本がお近くの図書館にあるかを、ご自分で探していらっしゃるようになりました。

デジタルアーカイブをご覧になられた方はまだ多くはありませんでしたが、「今月のデジタルアルバム帖」として、毎月テーマを決めて古い絵はがきや写真・絵図など貴重な資料をわかりやすくご紹介しながら順次内容を充実させていく予定です。どうぞご期待下さい。

## 湖国の本棚



## 吼える一豊

～山内一豊と妻・千代  
羽生道英著 光文社  
2006.3

安土桃山から江戸初期の戦乱の世を生きた山内一豊は、信長・秀吉・家康と天下統一を果たした三人の武将に仕えた。家康から「竹のように真っ直ぐの人柄、篤実は、他に類のないもので、しかも口が固い」と評された人物である。

妻、千代との婚儀から土佐の一国一城の主となるまでを描いた本書は、妻の内助の功が取り上げられることが多い中、一豊の功績や心の動きを中心に描かれている。

現代社会にも通じる人間関係や、生き方の手本となる場面が多く出てくる作品であり、一気に読み進めることができる。

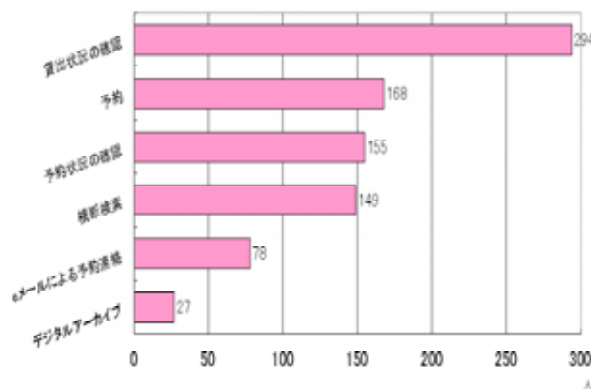
## 笑顔のために頑張ります

このたびはアンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

図書館では、いただいたご意見を参考にしてよりよい図書館サービスを目指していきます。

なお今回ご紹介できなかった統計・アンケートの結果は『平成18年度滋賀県立図書館事業概要』で公表いたします。

利用したことのある新サービス



## FLASH ふらっシュ

チェーンソーアーティスト来館！



4月29日(土)に、「みどりの日のつどい」協賛事業として高取チェーンソーCLUBによるチェーンソーアートパフォーマンスが行われました。丸太からチェーンソーひとつで熊のベンチが切り出され、周りを取り囲んだたくさんのギャラリーから拍手や驚きの声があがっていました。ベンチは、現在館内に設置しています。ぜひご利用下さい。

## 今月のデジタルアルバム帖

### 6月 「道の国・近江」

6月は街道沿いのお店の様子を紹介します。滋賀県には東海道をはじめ主要な旧街道が数多く通っています。かつてその道々の茶店などは、行き交う旅人でずいぶん賑わっていました。そのお店と旧街道の様子を名所図会、浮世絵などからお伝えします。



### 7月「第二次世界大戦前後の滋賀県(仮題)」

7月は学徒動員・学童疎開などの絵はがきや写真から、戦時下の滋賀県の様子を紹介します。

<http://archive.shiga-pref-library.jp/>

## 今月のBOOKまーく

お気づきでしたか？

一般資料室の展示コーナー

書店などで「フェア」と名付けたブックフェアがよく行われていますよね。こんな本があったのかと新しい1冊に出会えたりします。

そんな今の気分を伝える、またこれとは思わせる展示をしたいと考えるのですが、書店と違って今話題になっている本はほとんど貸出中ですし、また同じ本を平積みにするわけにもいきません。

逆に図書館の強みは、何万冊もの蔵書の中から選べること。テーマを決め、基本書をもらさぬように慎重に選びます。

選んだ後は、どうディスプレイするか？ここも腕の見せどころ。ワインボトルを並べたり、スキーのジャンプ台を作ったりと、本がより魅力的に見えるよう工夫します。

だからこそ、展示本がなくなるほど貸出しになったときの喜びは大きいのです。反対に、たくさん残ってしまった時は結構落ち込みます。次こそは「さすがプロ」と思っていただけのように貸出に返却にとアンテナを張り巡らせているのです。(福)

## 郷土資料紹介

比叡山 日本仏教の母山 天台宗開宗千二百年記念（別冊太陽） 平凡社 2006年  
淡海文化財論叢 第1輯  
淡海文化財論叢刊行会編刊 2006年  
近江の考古と地理  
高橋美久二編 滋賀県立大学人間文化学部考古学研究室 2006年  
佐々木六角氏の系譜 系譜学の試み  
佐々木哲著 思文閣出版 2006年  
織田信長民姓国家実現への道  
浜田昭生著 東洋出版 2006年  
大津に生きる女性たち 明治から現代まで  
0203（おおつおうみ）の会女性史チーム  
編刊 2006年  
琵琶湖見聞録  
浅井良英著刊 2005年  
県境踏査記録集 創立30周年記念  
滋賀山友会編刊 2006年  
水の街道 関西編  
産経新聞大阪本社写真報道局編著  
産経新聞出版 2006年  
堤康次郎と西武グループの形成  
大西健夫ほか編 知泉書館 2006年  
高月町民の戦争体験  
高月町立高月中学校編刊 2006年

## 平成18年3月～4月購入・寄贈分

京・近江・丹後大工の仕事 近世から近代へ  
建部恭宣著 思文閣出版 2006年  
世界の城下町彦根をめざして 彦根の町家を  
生かしたまちづくり  
彦根景観フォーラム編刊 2006年  
戦国の山城・近江鎌刃城  
米原市教育委員会編  
サンライズ出版 2006年  
食べつなぐふるさとの食事 滋賀県志賀町  
郷土料理研究会ほか編 新樹社 2006年  
おじいちゃんは水のおいがした  
今森光彦著 偕成社 2006年  
近世・近代商家活動に関する総合的研究  
宇佐美英機編刊 2006年  
四季彩々  
田中延子著  
美研インターナショナル 2006年  
湖国の冬 眞野康洸スケッチ集  
眞野康洸著 新風舎 2006年  
茶子 九十歳の出発  
辻井ツヤ著  
茶子の詩集をつくる二人会 2006年

## 究極の統計書“国勢調査”

まだ見たことない方、急ぎ「参考資料室」へ

『平成 12 年国勢調査報告』は全 311 冊、ぜひその壮大な全容をご覧ください。  
(R-3581)

参考資料室では、ビジネスに役立つ『商業統計表』(RB-6705-シ)『家計調査年報』(RB-3654-カ)『需要動向調査報告書』(RB-6752-シ)などをはじめ各種の統計書や、オンライン・データベースによる最新の統計情報、また県内自治体が発行する統計年報などを揃えて、ご利用をお待ちしています。

### ～ブレイクタイム～

**Q.県立図書館に3階はある？**

**A.ありません。**

玄関ロビーから上を眺めて、疑問に思われる方が多いようです。  
3階に見える部分は回廊で、設備点検のため係員が行き来することはあります。  
「図書館の怪人が住んでいるのでは？」と想像されていた方、残念でした。